

学校名	研究課題	研究手法
湯涌小・芝原中学校	教科一般	小中連携

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 9年間を見通した子ども像を目指した取組の工夫

授業において、月別学習目標が達成できるよう、発問、学習活動、板書などの在り方を研究授業、相互授業参観週間を通して明らかにする。

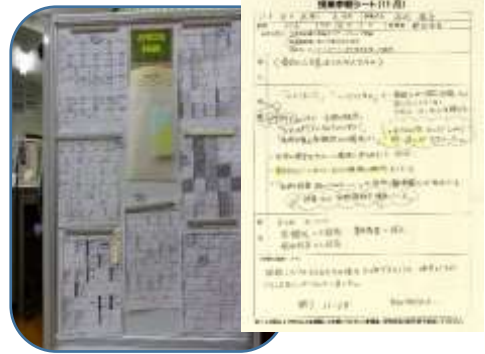
① 小中合同研究授業

要請訪問を全職員が実施し、指導助言をいただいた。さらに、小中から一人ずつ全職員が参観する研究授業を実施した。学校研究の重点「目的意識の明確なペア・グループ活動」「発達段階に応じた聞き型の活用」「図表、ホワイトボード、ICT等を活用した説明」に視点を置き、授業整理会を実施した。



② 小中相互授業参観週間

小中併設の特色を生かし、6月と11月の2回、小中相互授業参観週間を設けた。1週間分の週案を職員室内に掲示し、どの授業が行われているか、わかりやすいようにした。お互いの授業を参観し、「授業参観シート」で良かった点や改善点を授業者と共有し、授業作りに生かした。



(2) 重点2 小中連携のための組織体制の活用と実践の工夫

小研究会と中研究会を活用しながら、発達段階に応じた実践事例を検討する。実践事例集を学期ごとに集約・見直ししながら、有効な発問の工夫や授業展開を研究する。

研究の重点と具体的な取組		実践事例集の活用と実践の工夫	
<p>研究の重点と具体的な取組</p> <p>目的：9年間を見通した子ども像を目指した取組の工夫を明らかにする。</p> <p>内容：月別学習目標が達成できるよう、発問、学習活動、板書などの在り方を研究する。</p> <p>方法：研究授業、相互授業参観週間を通して明らかにする。</p>	<p>実践事例集の活用と実践の工夫</p> <p>目的：発達段階に応じた実践事例を検討し、有効な発問の工夫や授業展開を研究する。</p> <p>内容：小研究会と中研究会を活用しながら、実践事例集を学期ごとに集約・見直しを行う。</p> <p>方法：実践事例集の活用、見直し、共有を行う。</p>	<p>研究の重点と具体的な取組</p> <p>目的：9年間を見通した子ども像を目指した取組の工夫を明らかにする。</p> <p>内容：月別学習目標が達成できるよう、発問、学習活動、板書などの在り方を研究する。</p> <p>方法：研究授業、相互授業参観週間を通して明らかにする。</p>	<p>実践事例集の活用と実践の工夫</p> <p>目的：発達段階に応じた実践事例を検討し、有効な発問の工夫や授業展開を研究する。</p> <p>内容：小研究会と中研究会を活用しながら、実践事例集を学期ごとに集約・見直しを行う。</p> <p>方法：実践事例集の活用、見直し、共有を行う。</p>

(3) 重点3 家庭や地域社会との連携

学校における教育活動への理解と協力が得られるよう、授業を公開したり学校だよりや学習だよりを発行したりするなど連携の在り方を研究する。

①学校だよりや学習だよりの発行

学校行事や月予定など学校全体の活動をお知らせする「湯涌・芝原便り」を毎月発行している。また、毎月の学習目標について「湯涌小学習だより」「芝原中学習通信」をそれぞれ発行している。学習の取組の振り返りや活動のようすなどをお知らせしている。



②授業公開

授業公開では、ほぼすべての保護者が参観している。参観後は、懇談を行い、日頃の児童生徒のようすや家庭でのようすなど情報を交換している。



2 取組の検証

児童生徒アンケートからは、話し合う活動については、肯定的な割合が小学校は95.7%、中学校は100%

金沢型学習スタイル自己評価シート		1学期	2学期
みんなで考えを深めるために発問を工夫し、ペアやグループ活動等の具体的な活動を取り入れることができた	小	66.7%	72.7%
	中	93.8%	95.8%
発言内容の確実な理解を深めるための問い返しや確認の活動を取り入れることができた	小	83.3%	81.1%
	中	87.5%	91.7%

であった。また、発表については、肯定的な割合が、小学校は95.7%、中学校は100%であった。

保護者アンケート

学校の教育活動に満足していますか	小	82.6%
	中	100%
学校は保護者と協力して教育活動を行っていますか	小	100%
	中	100%

金沢型学習スタイル自己評価シートから、授業の中で発問を工夫したり具体的な活動を取り入れたりと小中共通な実践を行うことができた。

また、学校行事や授業参観などにはほぼすべての保護者が参加し、学校の教育活動への関心の高さを見ることができる。

3 成果と課題

成果として、小中連携による「小中合同研究授業」や「小中相互授業参観」の実施、全教職員による研究授業をすることができた。さらに、校内研修会によって全職員が同じ方向性で授業づくりを行うことができた。

その一方で、課題の提示と導入にかかる時間や一人一人が考えたり深めたりする時間が確保できるようなタイムマネジメントをより意識した授業づくりが必要である。また、小学校では、考えを深めるためのペア・グループ活動を取り入れる場面の工夫が課題である。中学校では、ペア・グループ活動を通して、生徒が主体的・協働的に取り組む授業を目指して授業展開を研究していく。